

「SGEPSS フロンティア賞」創設の趣旨

地球電磁気・地球惑星圏学会は、会員相互の情報交換と親睦を図り、地球電磁気学および地球惑星圏科学に関連する学術、ならびにその応用技術の進歩に寄与することを目的としています。その重要な役割の一つとして、本学会に関連する学問研究の発展に貢献した個人・グループを顕彰することがあります。本学会にはこれまで、顕著な研究業績や学界での活動を通して当学会の発展に貢献した会員を顕彰する長谷川・永田賞、顕著な学術業績をあげた会員を表彰する田中館賞、若手で独創的な研究成果を出している会員に与えられる大林奨励賞、学生の優秀な発表を表彰する学生発表賞、当学会の活動に関わる技術・教育・研究支援・啓発などへの貢献を顕彰する学会特別表彰、がありました。

本学会会員は、1947年の学会設立以来、電子技術の発達、宇宙時代の到来、計算機科学の発展という時代の波に乗り、常にその最前線で活動してきました。また、近年は、学問の総合化および社会的応用の要請という流れの中で、会員の活動も新たな展開を見せつつあります。すなわち、本学会会員による研究の成果は、地球惑星圏における未知の現象の発見と理解という科学的な重要性だけではなく、新しい測定技術の開発、資源探査や防災、人工衛星や宇宙ステーションなどによる宇宙空間の利用に役立つとともに、地球やその大気・生命の誕生と進化の仕組みを明らかにし、未来の地球環境を予測する上で重要な知識となっており、その研究対象および応用分野はますます広がっています。しかし、本学会ではこれまで、より広い分野への発展に繋がる学際融合研究の開拓者や、研究を大きく進展させる革新的な技術開発・研究基盤の構築や整備を推進した個人やグループを顕彰する賞はありませんでした。

そこで今回、「SGEPSS フロンティア賞」を創設し、本学会周辺分野との学際融合研究、革新的技術開発、研究基盤の構築・整備等によって、本学会の研究の発展に多大な貢献のあった個人あるいはグループを顕彰することになり、評議員会および第129回総会においてご了解をいただきました。この賞の導入により、独創的・分野横断的研究が勇気づけられ、また、研究の基盤となる技術的側面にも光があたり、本学会の研究分野がますます広がりを持ち、発展していくことが期待できます。

(第210号会報掲載記事より抜粋)